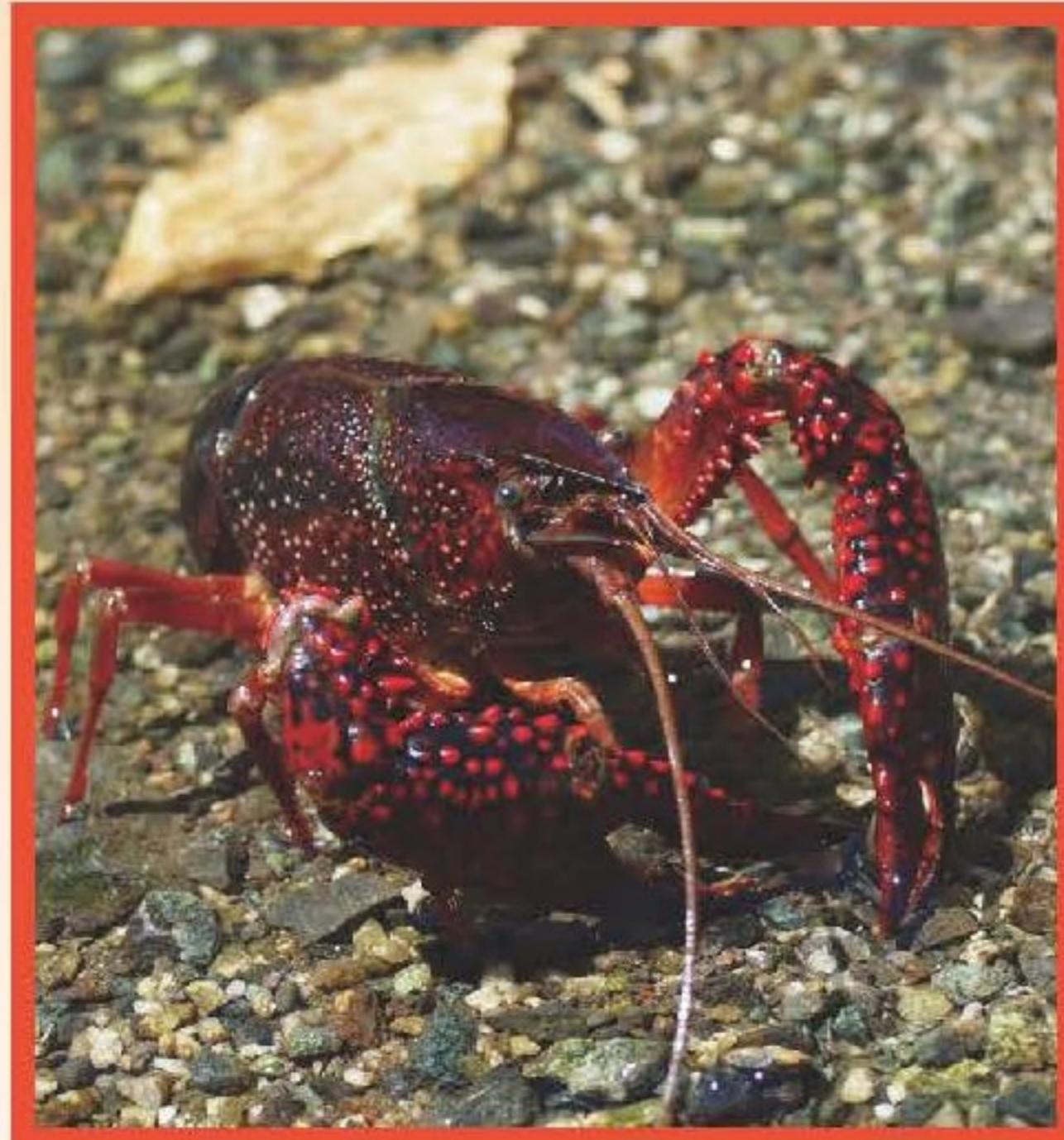




九州でみられる

# 外来生物 ガイドブック

(水辺の動物編)



九環協

一般財団法人 九州環境管理協会

# 目次

はじめに	1
外来種とは	2
外来種はどうやってくるか	2
外来種が与える影響	3
外来種問題の解決に向けて	4
私たちにできること	5
わが国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト	6
掲載種一覧	8
用語の説明	10
本書の使い方	11

## 爬虫類

・アカミミガメ	P.12
・カミツキガメ	P.13

12

・ウシガエル	P.14
・長崎の離島や種子島のヌマガエル	P.16

14

## 魚類

・ブルーギル	P.17
・オオクチバス	P.18
・タイリクバラタナゴ	P.20
・カダヤシ	P.22
・ジルティラピア	P.23
・ソウギョ	P.23
・九州北西部のギギ	P.24
・琵琶湖・淀川以外のハス	P.24

17

## 無脊椎動物

・スクミリングガイ	P.25
・自然分布域外のサキグロタマツメタ	P.26

25

・アメリカザリガニ	P.27
・カラムシロ	P.28
・タテジマフジツボ	P.28

## コラム

・保全活動で拡がる外来種	P. 5
・特定外来生物と緊急対策外来種	P. 7
・ウシガエルとアメリカザリガニ	P.15

# はじめに

「自然豊かな河川を想像してください。」

そう言われると、多くの人がアユなどの魚が泳いでいる河川や、メダカやホタルがすむ里地の小川を想像すると思います。

その景色の中に、ウシガエルやブラックバス、ブルーギルが登場する人はほとんどいないでしょう。

これらは、本来日本に生息しておらず、『外来種』と呼ばれています。この外来種は、野外に定着すると、さまざまな問題を引き起こす可能性があると言われています。

本ガイドブックでは、九州の水辺に生息する外来種のうち、代表的なものを紹介しています。また、種の紹介だけでなく、外来種とは何か、どのような問題を引き起こしているのか、どう対処すると良いのかも記載しました。外来種問題に関わりの少ない方にも、このガイドブックを手にとっていただき、外来種について考えるきっかけになればという願いをこめて作成しました。

# ○外来種とは

外来種とは、もともと生息していなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことです。

外来種というと外国から日本に持ち込まれた生物と思われがちですが、日本に生息している種でも、もともといない地域に持ち込まれると、外来種になり、その地域の生物に影響を与えるおそれがあります。

このガイドブックでは、そのような外来種を『国内由来の外来種』と呼んでいます。



# ○外来種はどうやってくるか

現在日本でみられる外来種はどのように侵入してきたのでしょうか。その経緯には、①意図的な導入と、②非意図的な導入があります。

## ①意図的な導入

ペットや家畜、緑化や園芸、漁業、害虫の天敵などの目的で野外に放されたり、植栽されるケースです。

特定の場所で飼育していても、管理が不十分で逃げ出したり、誤って放たれたりしてしまう場合があります。

## ②非意図的な導入

人や物が移動するときに、それらに付着、混同または寄生するなどして、他の地域に導入されるケースです。

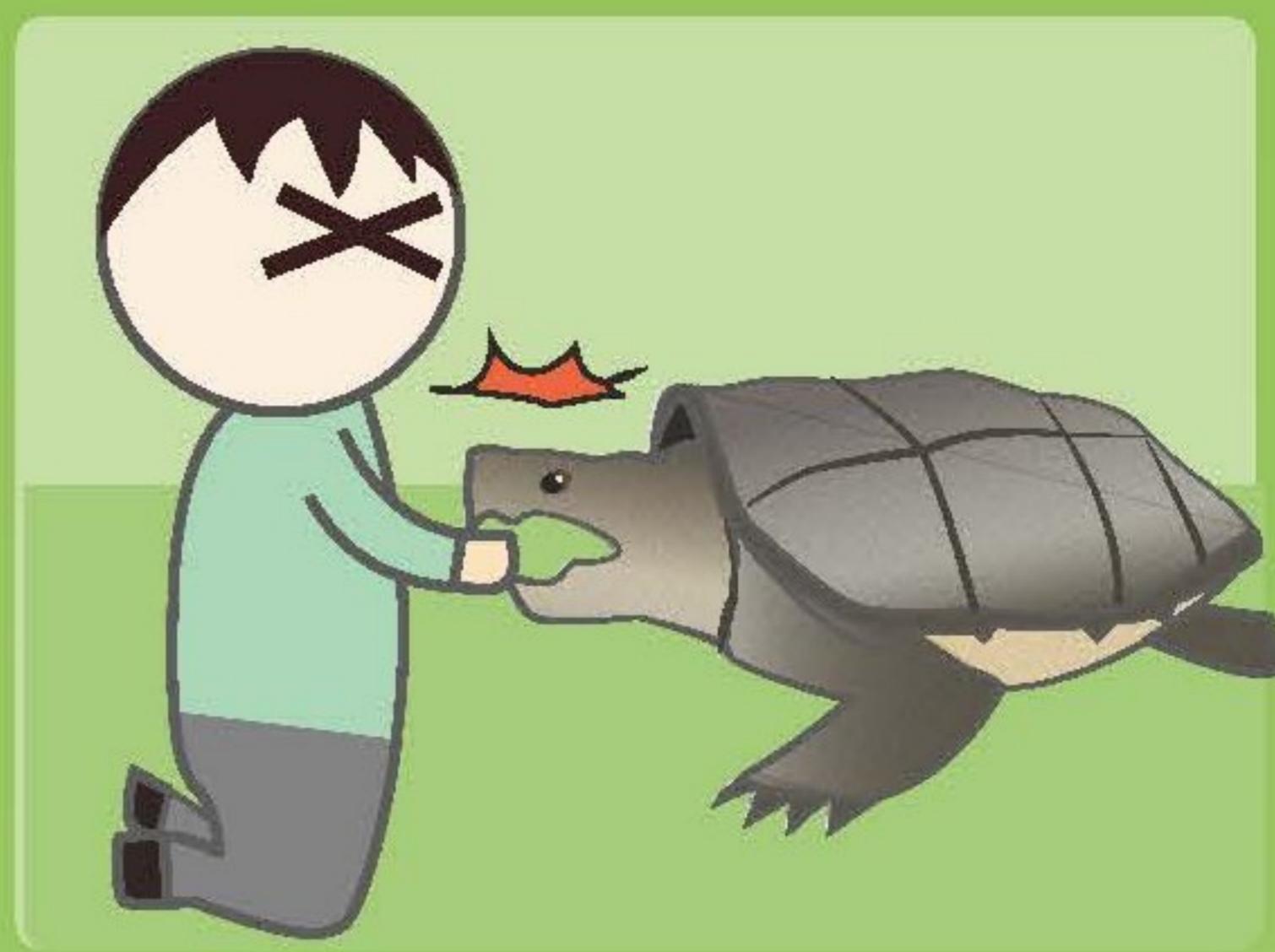
植物の種子や、昆虫、寄生虫などの小さな生きものに多い導入経路です。意図的ではないので、防除が難しい場合があります。

# ○外来種が与える影響

## ○人体への影響

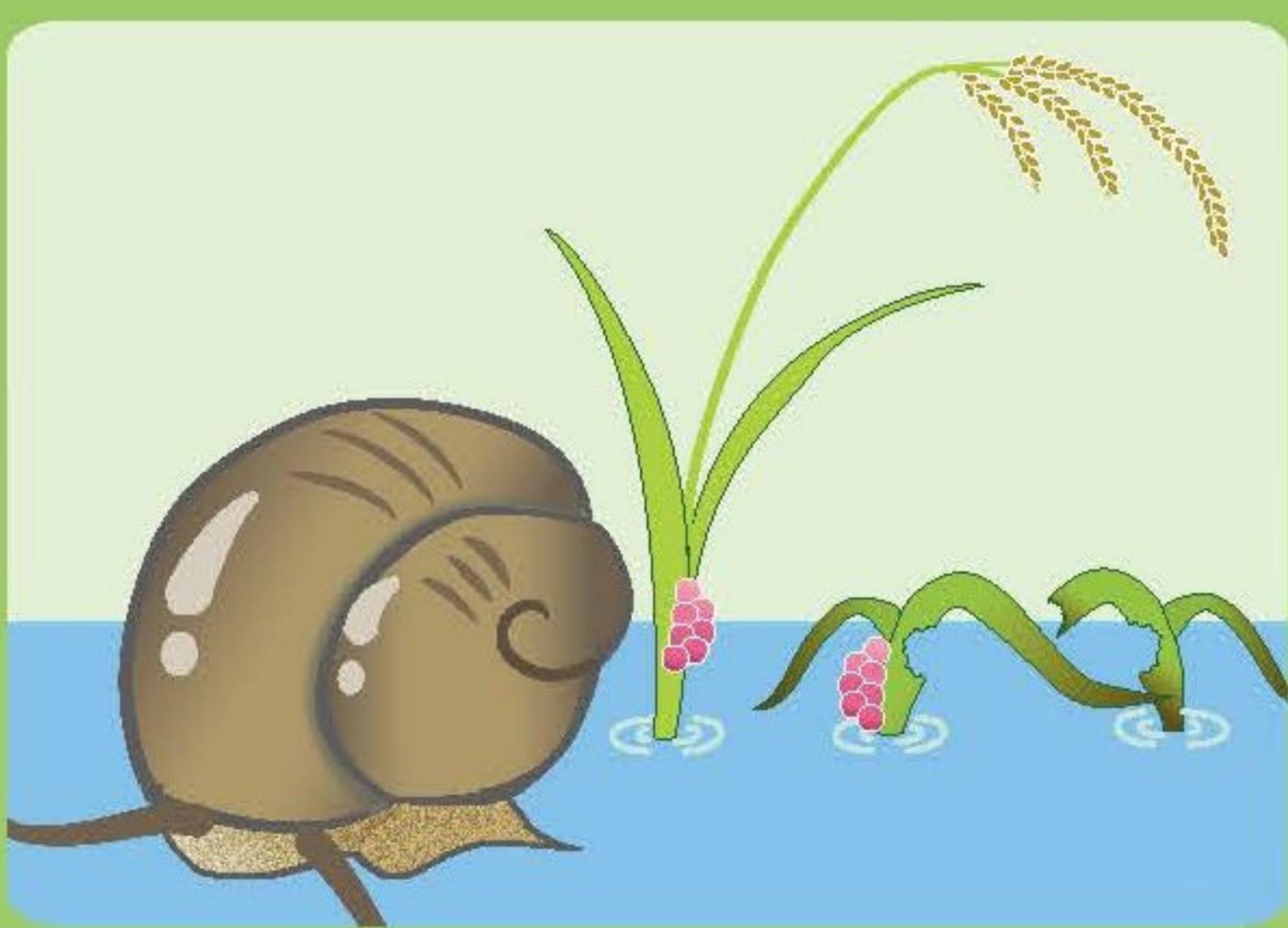
外来種の中には噛みついたり、刺したりして、人の身体に直接危害を加えるものもあります（例：カミツキガメ → P.13）。

また、毒をもった生物や、日本にはいない病原菌をもった生物が侵入し、感染症などが発生する危険性もあります。



## ○人の生活への影響

外来種の中には、田んぼのイネを食べて枯らしたり、漁業の対象となる生物を捕食するなど、人の生活に危害を加えるものもあります（例：スクミリングガイ → P.25）。

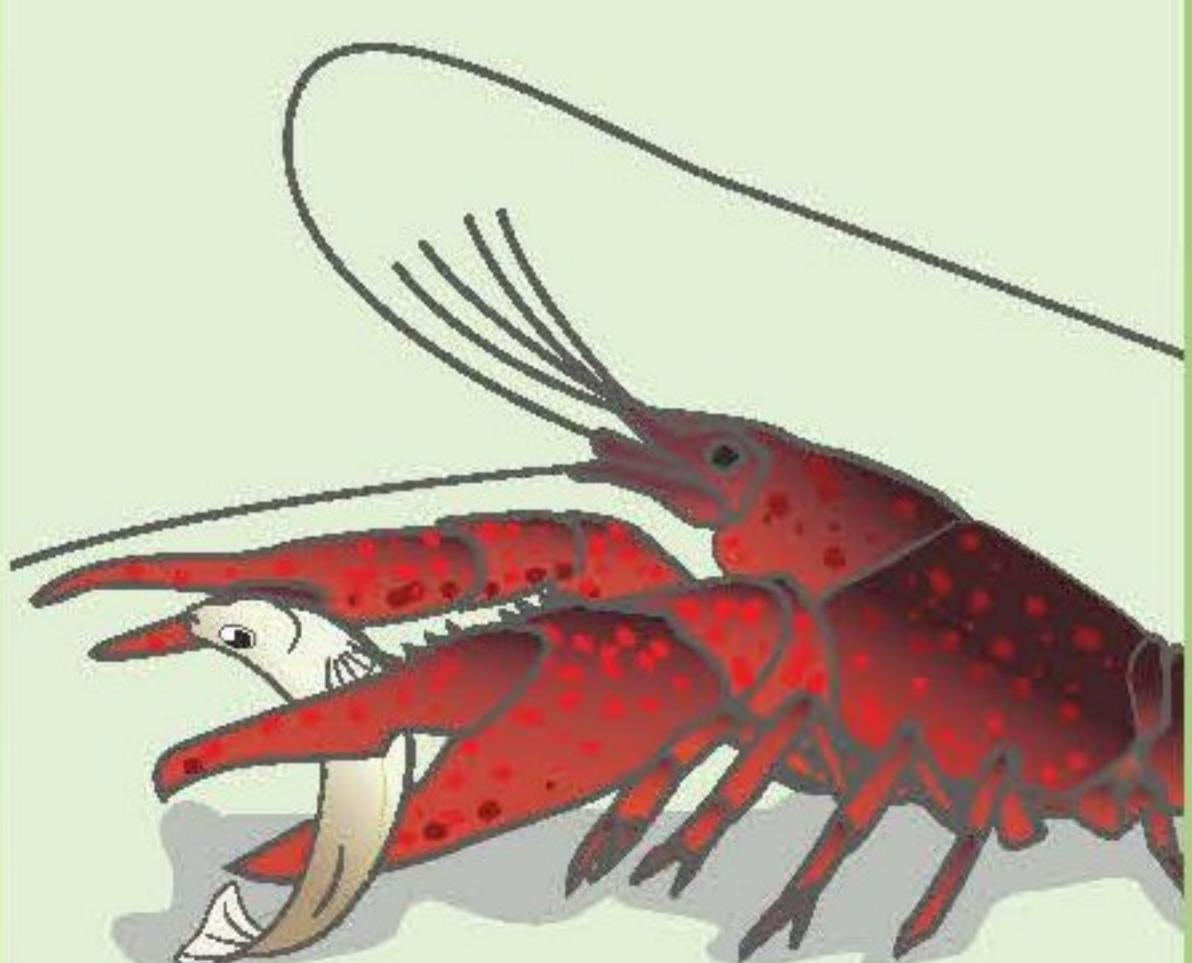


## ○生態系への影響

外来種が侵入し、新たな場所で生息するためには、餌をとったり、葉っぱを茂らして生活の場を確保したりする必要があり、もともとその場所で生活していた在来の生物との間で競争が起こります。

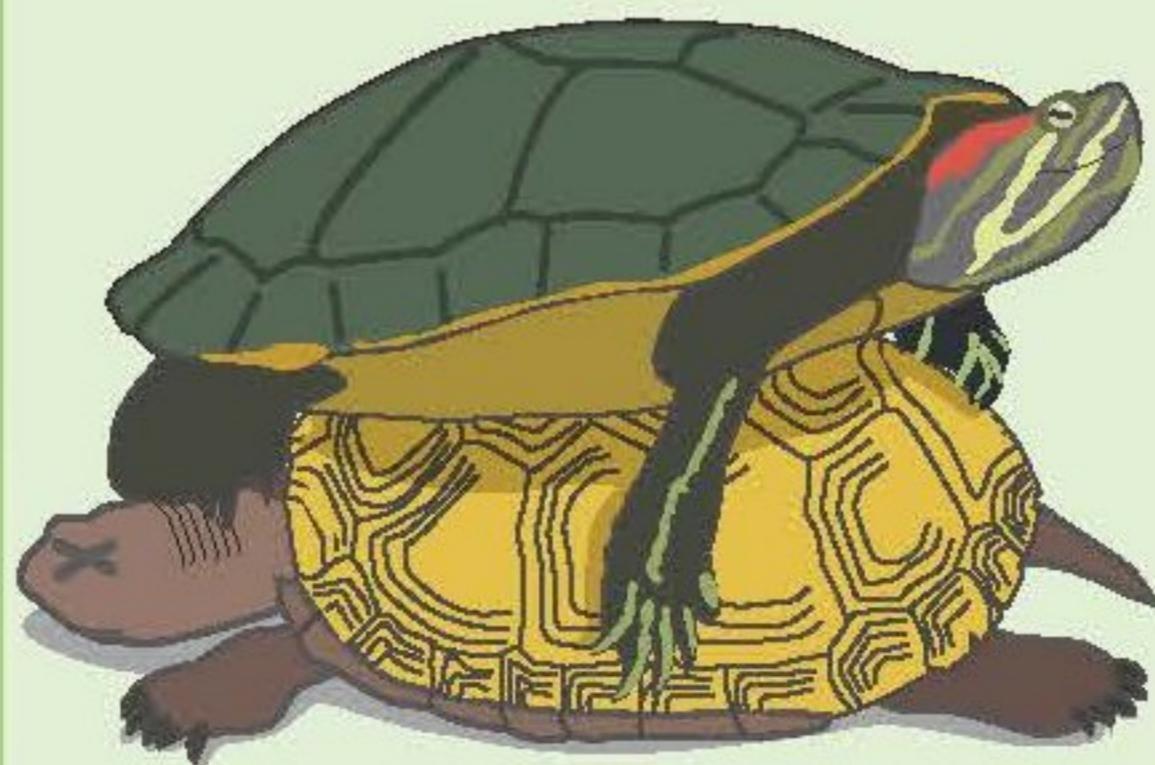
### ・捕食

在来種を食べる



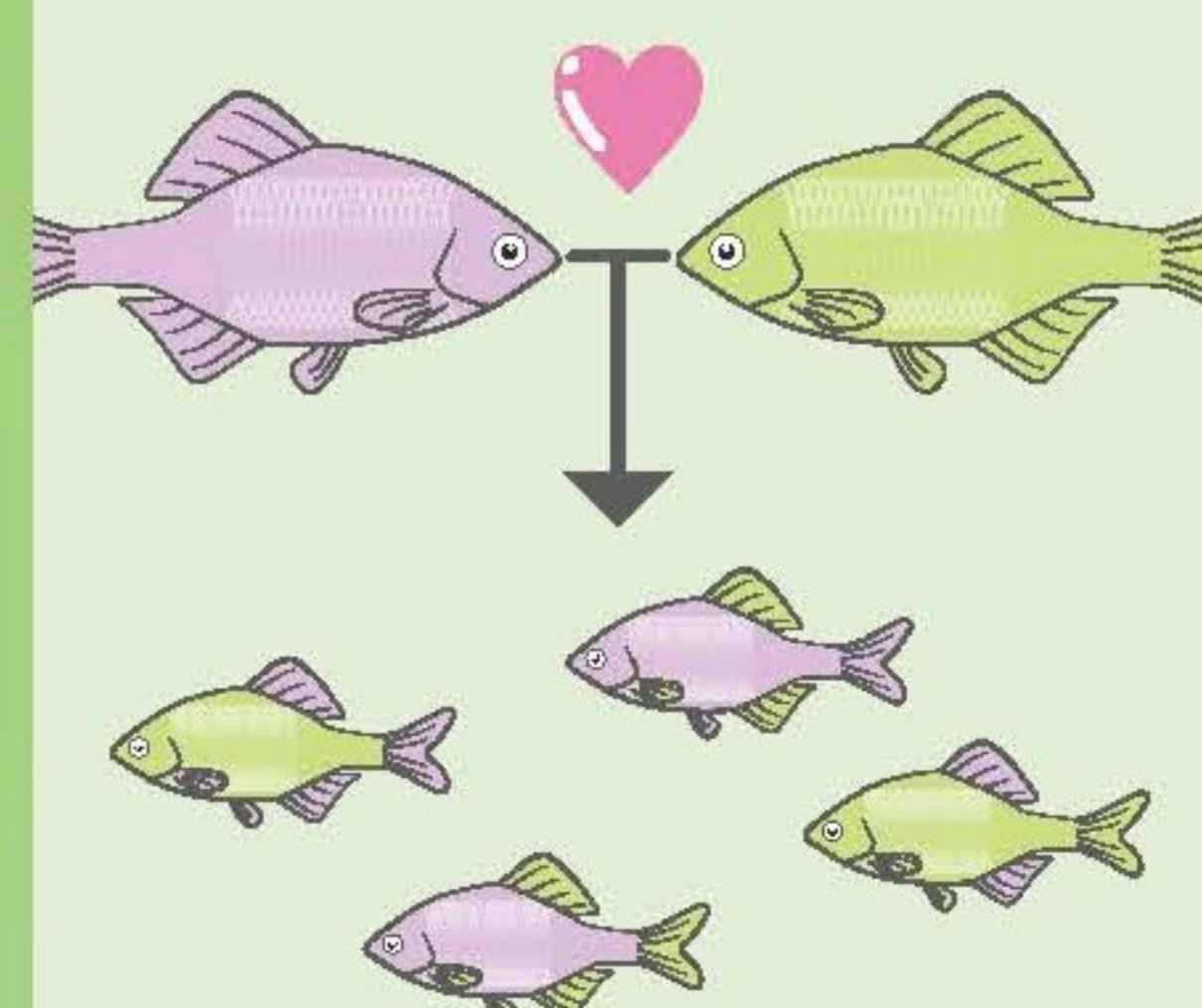
### ・競合

在来種の生息場やエサ資源を奪う



### ・遺伝的搅乱

近縁種と雑種をつくる



# ○外来種問題の解決に向けて

## ○外来生物法の制定

日本では、外来種の侵入、拡散を防止し、生態系等への被害を防ぐことを目的として、平成16年に『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（以下、外来生物法）』が制定されています。

この法律の中で、人体や人の生活、生態系に被害を及ぼす（またはそのおそれがある）生物として指定されているのが『特定外来生物』です。

### 特定外来生物

生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすものを指定

### 規制

飼養等の取り扱いが原則禁止

### 防除

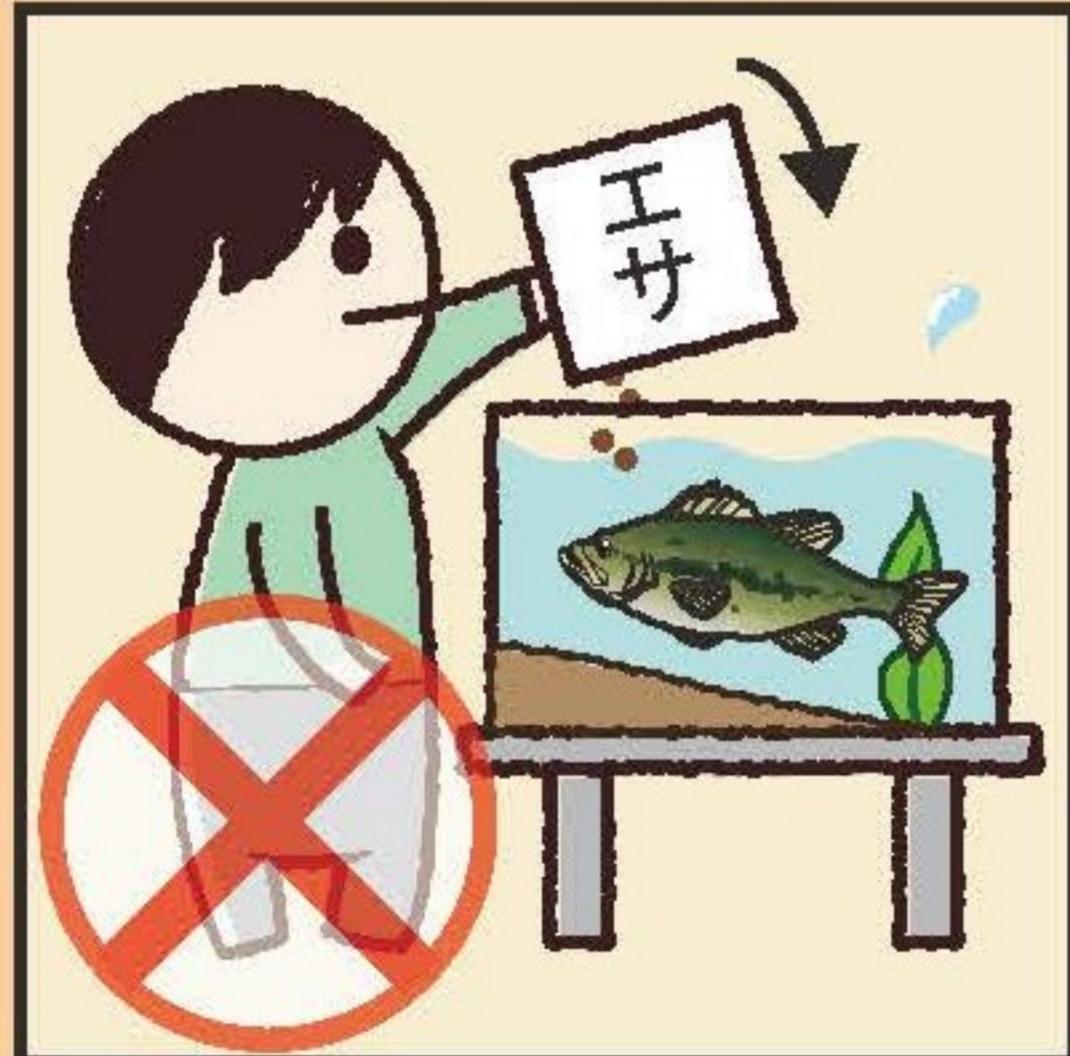
必要に応じて防除を実施

生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を防止

## ○なにが規制されるか

特定外来生物に指定されたものは、以下の項目が規制されます。

飼育・栽培



生きたままの運搬



保管



輸入



野外に放つ



譲渡し・引渡し



# ●私たちにできること

## ①入れない!

外来種対策で何より大切なのが、外来種を「入れない」ことです。魚釣りのために広められたオオクチバス（ブラックバス）のように、人間が積極的につれてきた外来種が多くみられます。

別の場所からつれてきた生き物を外に放さないようにしましょう

## ②捨てない!

もとはペットや観賞用だったものが、外に広がり定着した外来種も少なくありません。ミシシッピアカミミガメ（ミドリガメ）やアメリカザリガニなどは、飼いきれなくなって野外に放されたものが定着したものです。

生き物を飼育するときは、最後まで責任をもって飼いましょう。

## ③拡げない!

すでに野外で定着・繁殖している外来種が、これ以上分布を拡げないようにすることも大切な取り組みです。自治体などが主体となって、駆除活動を行っている場合もありますので、ぜひ参加してみてください。

コラム

### 保全活動で拡がる外来種

近年では、環境への関心が高まり、各地で環境保全活動が行われています。しかし、そのなかには誤った保全活動を行っている場合があります。

たとえば、メダカなどの在来種を放流する際、他の県や地域から取り寄せたものを用いることがあります。一見すると、在来種の保全につながるようですが、実はメダカなど在来種には、地域ごとに固有の特性があり、別の地域のものを入れてしまうと、交雑し、地域特性が失われるおそれがあります。

在来種であっても、別地域からつれてきたものは、外来種と考えるべきなのです。

# ○我が国の生態系等に被害を及ぼす

## ○リスト作成の背景

今まで外来生物法では、特定外来生物に指定されていない外来種については具体的な対策の方向性が示されていませんでした。

さらに国外由来だけでなく、国内由来の外来種への関心も高まっており、対策が必要となってきています。

これらの背景を受け、生物多様性の保全に向け、様々な主体（国、地方自治体、国民）による外来生物対策が進展することを目的に、本リストが作成されました。

## ○掲載種のカテゴリと必要な対応

本リストでは、対策の方向性から

- ①定着を予防する外来種（定着予防外来種）
  - ②総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種）
  - ③適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）
- の3つのカテゴリに区分されています。

各カテゴリの詳細を以下に示します。

### ①定着予防外来種：国内に未定着のもの

#### ・侵入予防外来種

国内にまだ侵入していない種

#### ・その他の定着予防外来種

国内に侵入の情報はあるが、定着は確認されていない種

## ○必要な対応

何より定着させないこと！導入の予防や侵入防止、野外へ逃げ出さないように注意する。

野外で発見した場合には、早期防除を行う。

# おそれのある外来種リストについて

## ②総合対策外来種：国内に定着が確認されているもの

### ・緊急対策外来種

対策の緊急性が高く、特に国・地方自治体・国民など各主体がそれぞれの役割において、**積極的に防除を行う必要**がある。

例) オオクチバス、アメリカザリガニなど

### ・重点対策外来種

甚大な被害が予想されるため、特に各主体のそれぞれの役割における**対策の必要性が高い**。

例) ウシガエル、タイリクバラタナゴなど

### ・その他の総合対策外来種

例) ソウギョ、カラムシロなど

### ●必要な対応

各主体における防除や、遺棄・導入・逸出防止のための普及啓発などを総合的に行う必要があります。

## ③産業管理外来種

産業または公益的役割において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理を行うことが必要な外来種。

例) ニジマス、セイヨウオオマルハナバチなど



### 特定外来生物と緊急対策外来種

緊急対策外来種の多くは、特定外来生物にも指定されています。特定外来生物以外からは、アカミミガメやアメリカザリガニなどが選定されていますが、外来生物法による規制は受けません。

# ●掲載種一覧

(総合対策外来種のみを掲載しています。)

## ○緊急対策外来種

アカミミガメ  
→ P.12



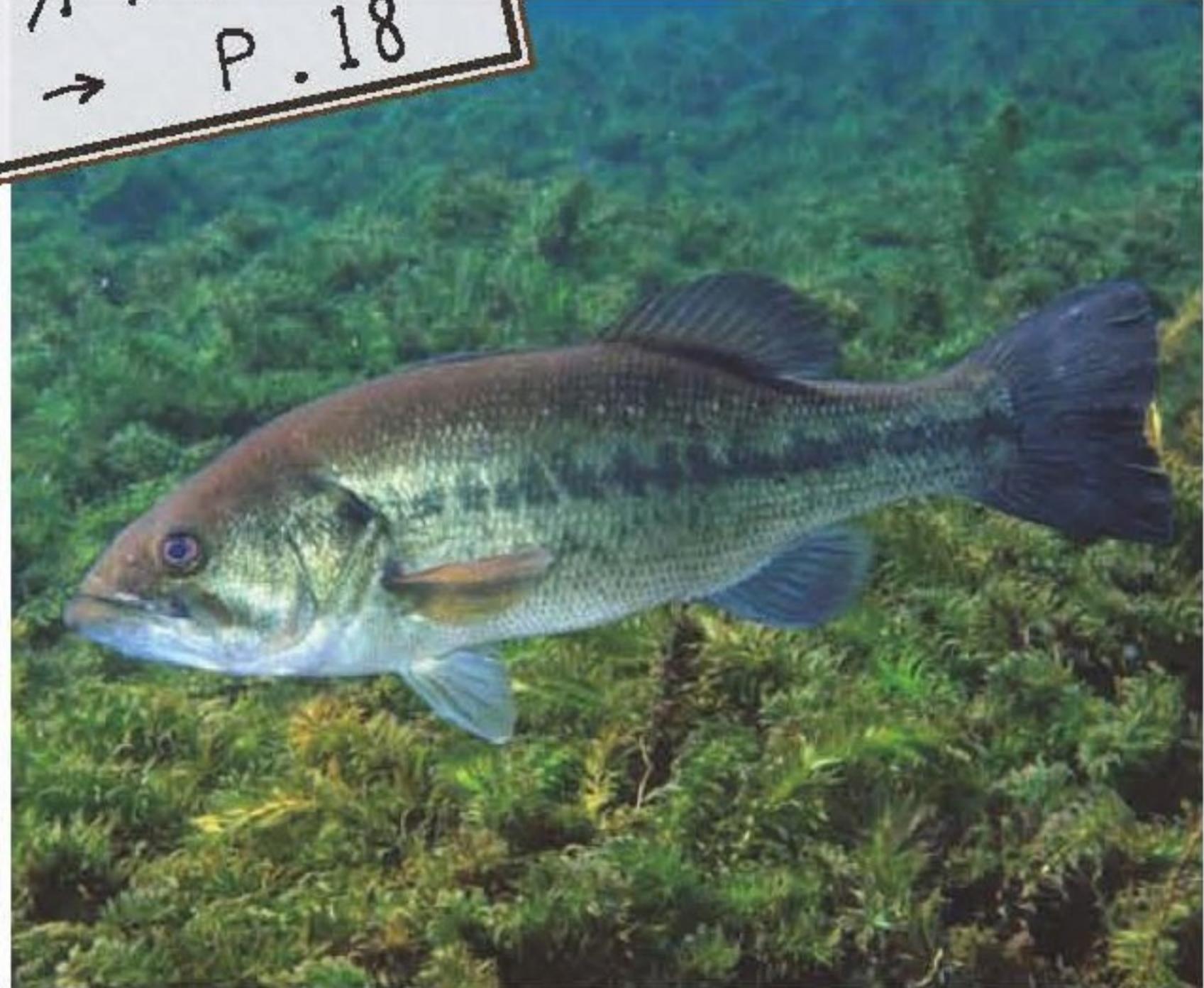
カミツキガメ  
→ P.13



ブルーベル  
→ P.17



オオクチバス  
→ P.18



アメリカヤリガニ  
→ P.27



## ○重点対策外来種

ウシガエル  
→ P.14



ヌマガエル  
→ P.16



タイリクバラタナゴ  
→ P.20



カダヤシ  
→ P.22



スクミリングガイ  
→ P.25



サキグロタマツメタ  
→ P.26



## ○その他の総合対策外来種

ジルティラピア  
→ P.23



ソウギョ  
→ P.23



ギギ  
→ P.24



ハス  
→ P.24



カラムシロ  
→ P.28



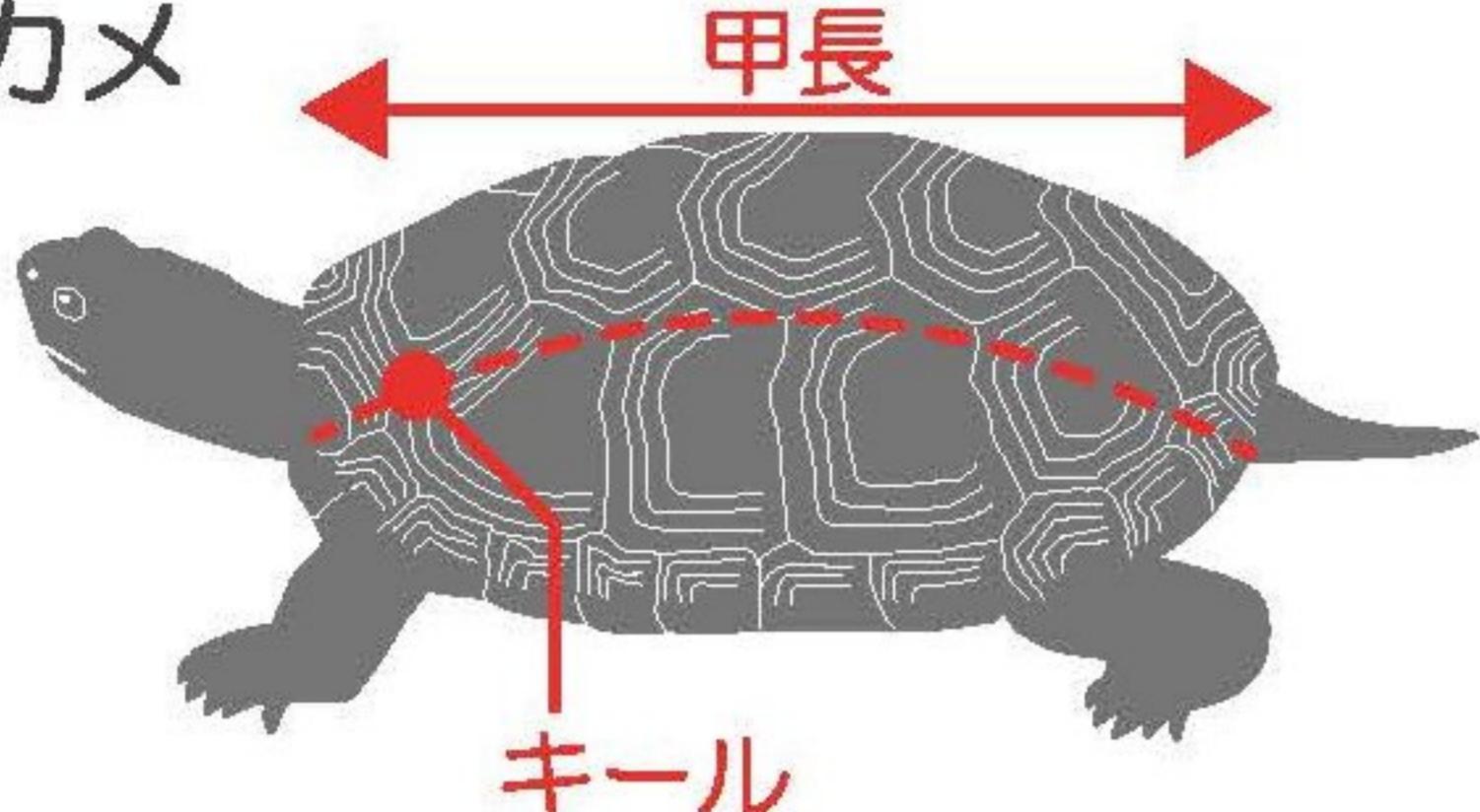
タテジマフジツボ  
→ P.28



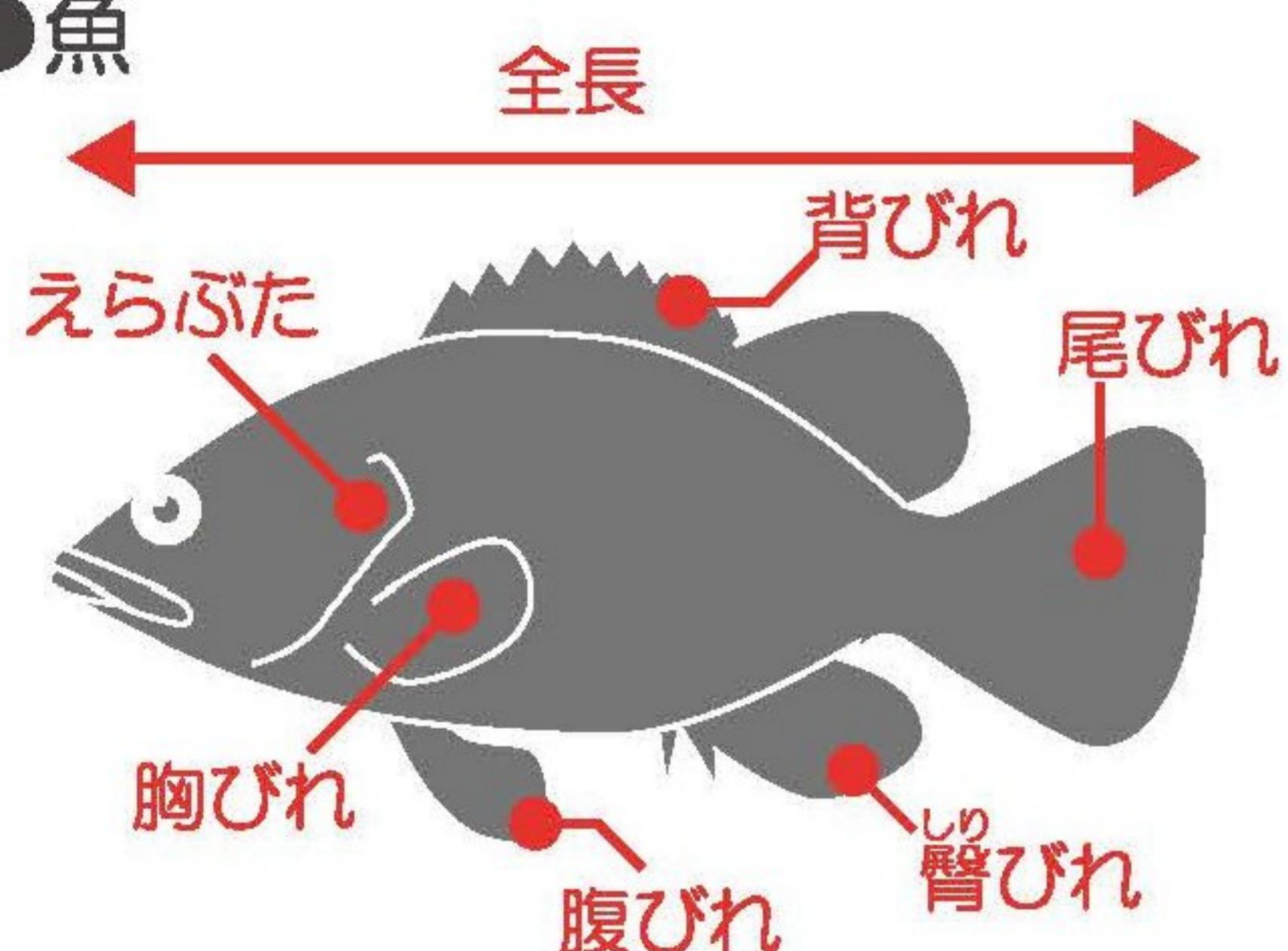
# ●用語の説明

## ○形態用語

### ●カメ



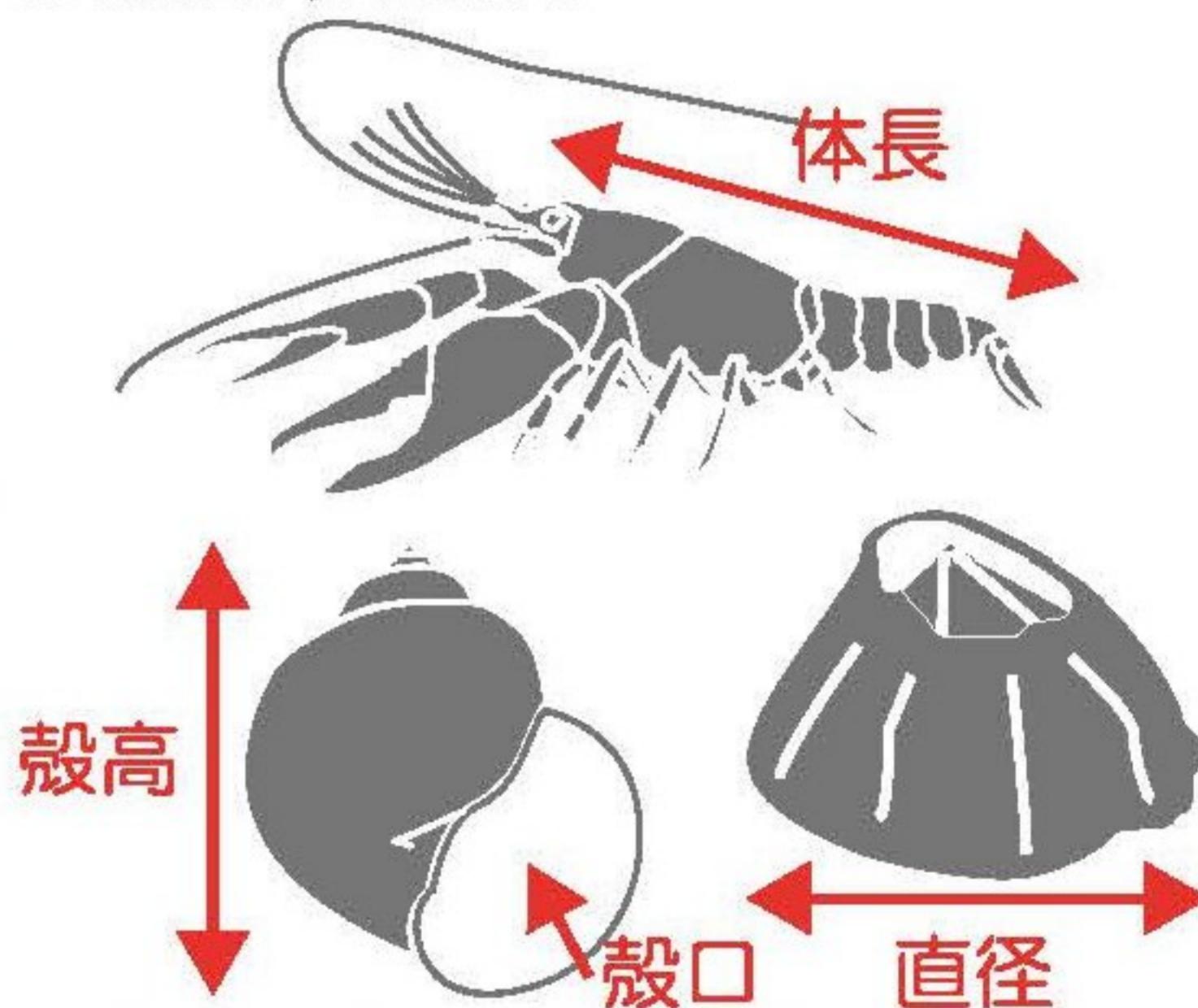
### ●魚



### ●カエル



### ●無脊椎動物



## ○その他の用語

### ●刺網

長い帯状の網で、群れて泳ぐ魚の進路を遮るように張り、魚を網にからませて捕る漁法です。

### ●定置網

一定期間、固定して設置する漁網です。

### ●もんどり

かご網状のワナのことで、様々な形状があります。

### ●卵塊

複数の卵がまとまって、ひとつの塊状となったもののことです。

### ●幼生

この本では、オタマジャクシのことです。

## ○指定・選定状況

この本では、特定外来生物などの指定・選定状況を、以下のマークで示しています。

### ●総合対策外来種に選定されている種



### 重点対策

### その他 総合対策

緊急対策外来種 重点対策外来種 その他総合対策外来種

### 特定外来

### ●特定外来生物に指定されている種



### ●国内由来の外来種

# ●本書の使い方

本書では、野外での観察に役立つように、形態の特徴を記載しています。そのほか、原産国や日本に侵入してきた時期や目的、被害状況なども載せているので、種の識別以外の目的でも使用できます。

本書では、情報量が不十分な点も多々あるので、より詳細な情報が知りたい場合は、専門書や図鑑等で調べてください。

## ●和名・科名・学名

和名と学名は、「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」に従っています。



ルアーフィッシングの対象魚としてブラックバスの名で親しまれています。

### 形態

全長50cmほど。口が大きく、上あごの後端は目の後縁直下より後方まで達します。

### 原産地

カナダ南部、アメリカ中東部、メキシコ北部原産。1925年に食用などのために導入されました。

### 生息環境

湖沼や池、河川の下流域など流れのゆるやかな場所に生息しています。

18

### 被害状況チェックリスト

- 人体への被害
- 人の生活への被害  
・捕食による有用魚介類の減少
- 生態系への被害  
・在来種の捕食や餌資源を奪う

## ●指定・選定状況

特定外来生物への指定状況等を、P.10のマークに従って載せています。

## ●生体写真

各種の特徴がわかるように、写真を大きく載せました。

## ●被害状況チェックリスト

それぞれの外来種が、日本にやってきて、どのような被害を及ぼしているか、または及ぼすおそれがあるかを、3つの項目に分けて記載しています。

### ■人体への被害

例) 噛まれてけがをする  
毒や病原菌をもつ…等

### ■人の生活への被害

例) 農作物を食害する  
水産資源の食害…等

### ■生態系への被害

例) 在来種のすみかを奪う  
在来種の捕食…等

## ●解説

各種の形態の特徴や原産地、日本に侵入した時期や目的、生息環境について解説しています。

# アカミミガメ

*Trachemys scripta*

緊急  
対策



野外でみられるカメのほとんどが本種です。

## 形態

甲長はオスで最大 20cm、メスで 28 cm。頭の両脇にみられる赤い斑と黄色いしま模様が特徴です。

## 原産地

アメリカ合衆国から南アメリカ北西部原産。1950 年代後半から「ミドリガメ」の通称でペットとして導入されました。

## 生息環境

湖沼やため池、河川の中下流域、公園の池、濠などに生息しています。

## 防除方法

魚の切り身などを用いたトラップで容易に捕獲できます。

### 被害状況チェックリスト

人体への被害

人の生活への被害

・観賞用のハスやレンコン、ジンサイなどの食害

生態系への被害

・在来種のカメの生息場や餌資源を奪う

# カミツキガメ

*Chelydra serpentina*

特定外来

緊急  
対策



強いアゴだけでなく、鋭いツメももっています。

## 形態

甲長は最大で約 50cm。甲らは 3 本のキールがあり、後ろ端はギザギザしています。

## 原産地

北アメリカ～南アメリカ原産。1960 年代にペットとして輸入されたものが、野外に放され、広がったとされています。

## 生息環境

湖沼や池、河川の下流域など流れのゆるやかな場所に生息します。

## 防除方法

魚の切り身などを用いたトラップで捕獲できますが、力が強いため、頑丈なトラップを用意する必要があります。

### 被害状況チェックリスト

#### 人体への被害

・噛まれると大ケガをする

#### 人の生活への被害

・漁具を壊したり、漁獲物を食害する

#### 生態系への被害

・在来種の捕食や餌資源を奪う



日本でみられるカエルの中で、最も大きくなるカエルです。食用ガエルとして知られています。

## 形 態

体長は最大で 20 cm。後ろ足の水かきがよく発達し、鼓膜が大きく目立つのが特徴です。

## 原 産 地

北アメリカ原産。1918 年に食用の目的で各地に放されました。現在は北海道南部から沖縄まで広く定着しています。

## 生息環境

湖沼やため池、河川や水路など流れがゆるやかで、水草が繁茂する水辺に生息しています。

## 防除方法

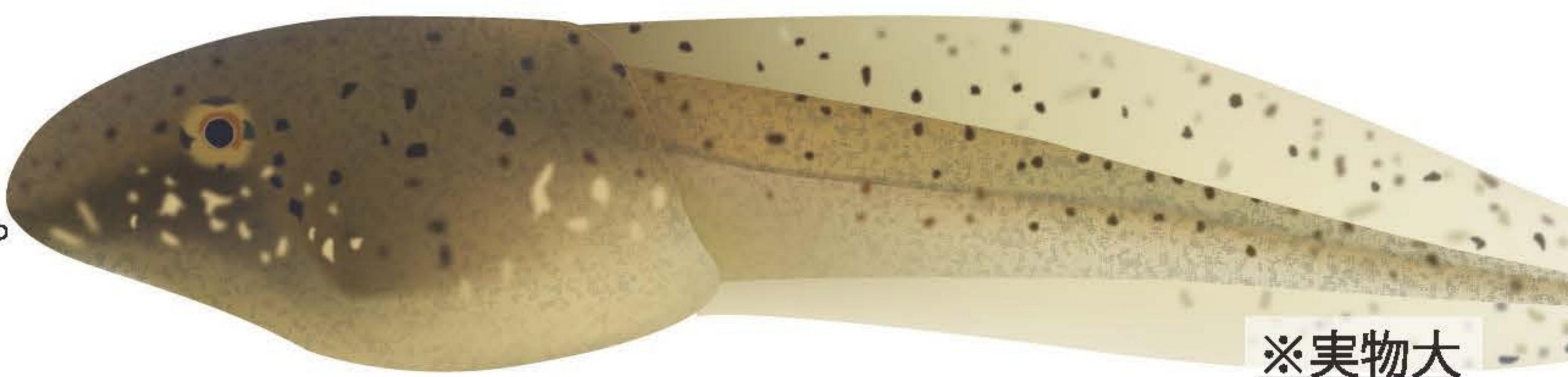
警戒心が強く敏捷なため、捕獲は日中ではなく夜間に行う必要があります。そのほか、幼生や卵塊の捕獲・除去も効果的と思われます。

### 被害状況チェックリスト

- 人体への被害
- 人の生活への被害
- 生態系への被害
  - ・捕食により、昆虫・甲殻類・魚類の生息に影響を及ぼす
  - ・在来種のカエルの生息場や餌資源を奪う

## 幼生

幼生も大きく、最大で 15 cm になります。幼生のまま、冬を越すので、一年中みることができます。1 ~ 2 年かけてカエルになります。



## 繁殖期・卵塊

繁殖期は 5 ~ 9 月上旬。水草の近くに産卵します。卵塊は、50 × 50 cm 以上のシート状です。一度に 6,000 ~ 40,000 個の卵を産みます。

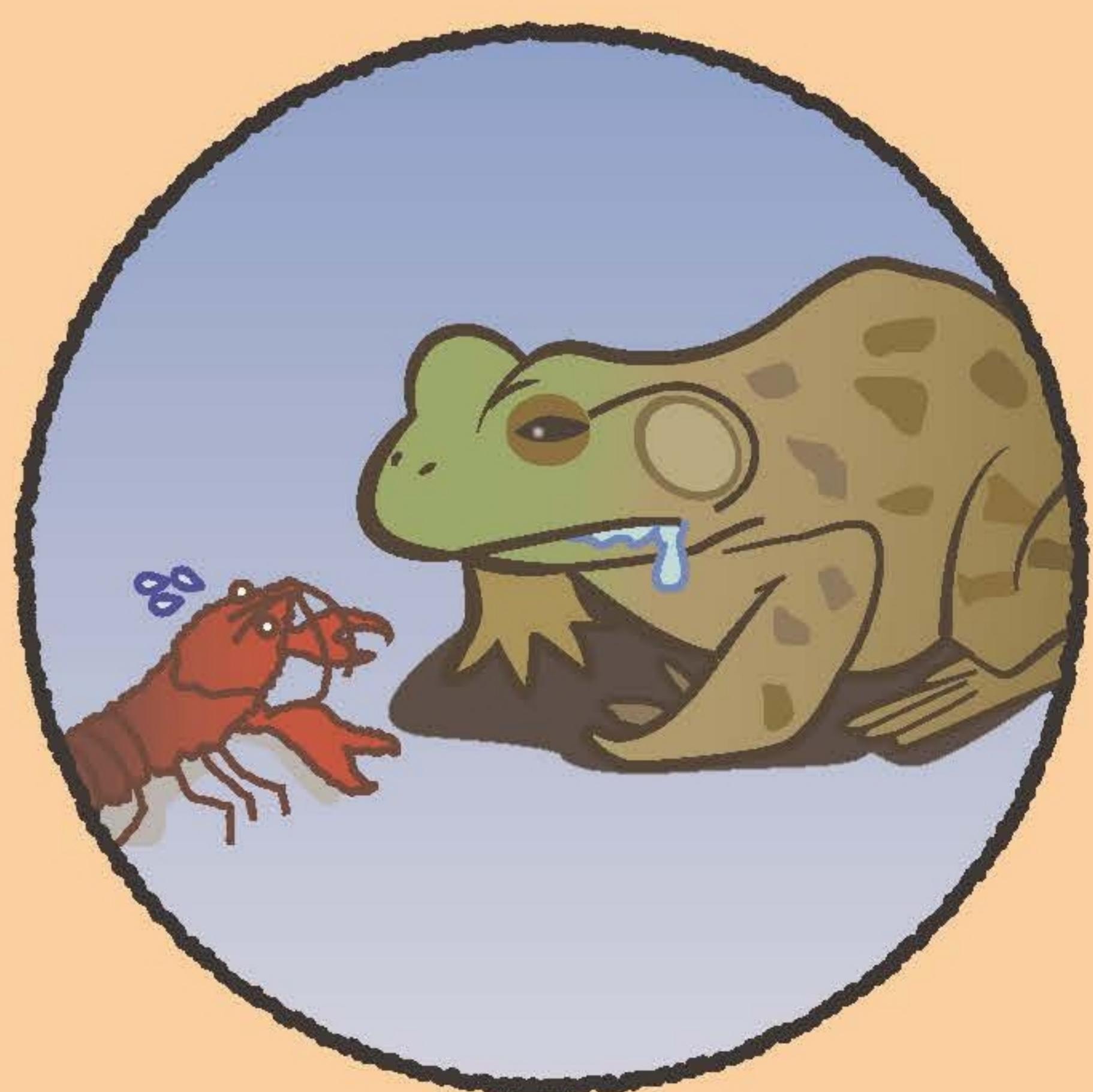


## コラム ウシガエルとアメリカザリガニ

1918 年以降、食用のため日本にウシガエルが輸入され、養殖されるようになりました。

そのウシガエルのエサにするために輸入されたのが、アメリカザリガニ（P.27 参照）です。

はじめはわずか 20 匹程度しか輸入されなかったアメリカザリガニですが、現在は日本中のいたるところに拡がり、生態系に被害を与えています。





水田が減り、カエルが生きづらい現代でも分布を拡げているタフなカエルです。

## 形 態

体長 28 ~ 55mm の小型のカエルです。からだの表面に小さいぼがたくさんあり、お腹が白いのが特徴です。

## 国内分布

自然分布は、本州中部以西～沖縄と一部の島嶼部。

対馬、壱岐、五島列島に長崎県本土から移入した個体が定着しています。

## 生息環境

平地から低山までの水田や湿地などの水辺に生息しています。

## 防除方法

繁殖期などに成体・幼生・卵塊を捕獲・除去を行うことが効果的と考えられます。

### 被害状況チェックリスト

人体への被害

人の生活への被害

生態系への被害

・島に生息していた在来のカエルの生息場を奪うおそれがある

# ブルーギル

*Lepomis macrochirus*

特定外来

緊急  
対策



「blue (青い) gill (えら)」の名は後方に突出した紺色のえらぶたが由来。

## 形 態

全長 25cm ほど。えらぶたの上部が後方に突出し、紺色をおびるのが特徴です。

## 原 産 地

北アメリカ東部原産。1960年に明仁親王(今上天皇)訪米時の土産品を、水産庁が各地の試験場に分与し、放流されました。

## 生息環境

湖沼や池、河川の流れのゆるやかな水草のある場所に生息しています。

## 防除方法

もんどりを用いた捕獲が効果的。そのほか、浅場でコロニーを形成する繁殖様式などの習性を利用した捕獲方法の開発が望まれます。

### 被害状況チェックリスト

人体への被害

人の生活への被害

・捕食による有用魚介類の減少

生態系への被害

・在来種の捕食や餌資源を奪う

# オオクチバス

*Micropterus salmoides*

特定外来



ルアーフィッシングの対象魚としてブラックバスの名で呼ばれています。

## 形 態

全長 50cm ほど。口が大きく、上あごの後端は目の後縁直下より後方まで達します。

## 原 産 地

カナダ南部、アメリカ中東部、メキシコ北部原産。1925 年に食用などのために導入されました。

## 生息環境

湖沼や池、河川の下流域など流れのゆるやかな場所に生息しています。

### 被害状況チェックリスト

人体への被害

人の生活への被害

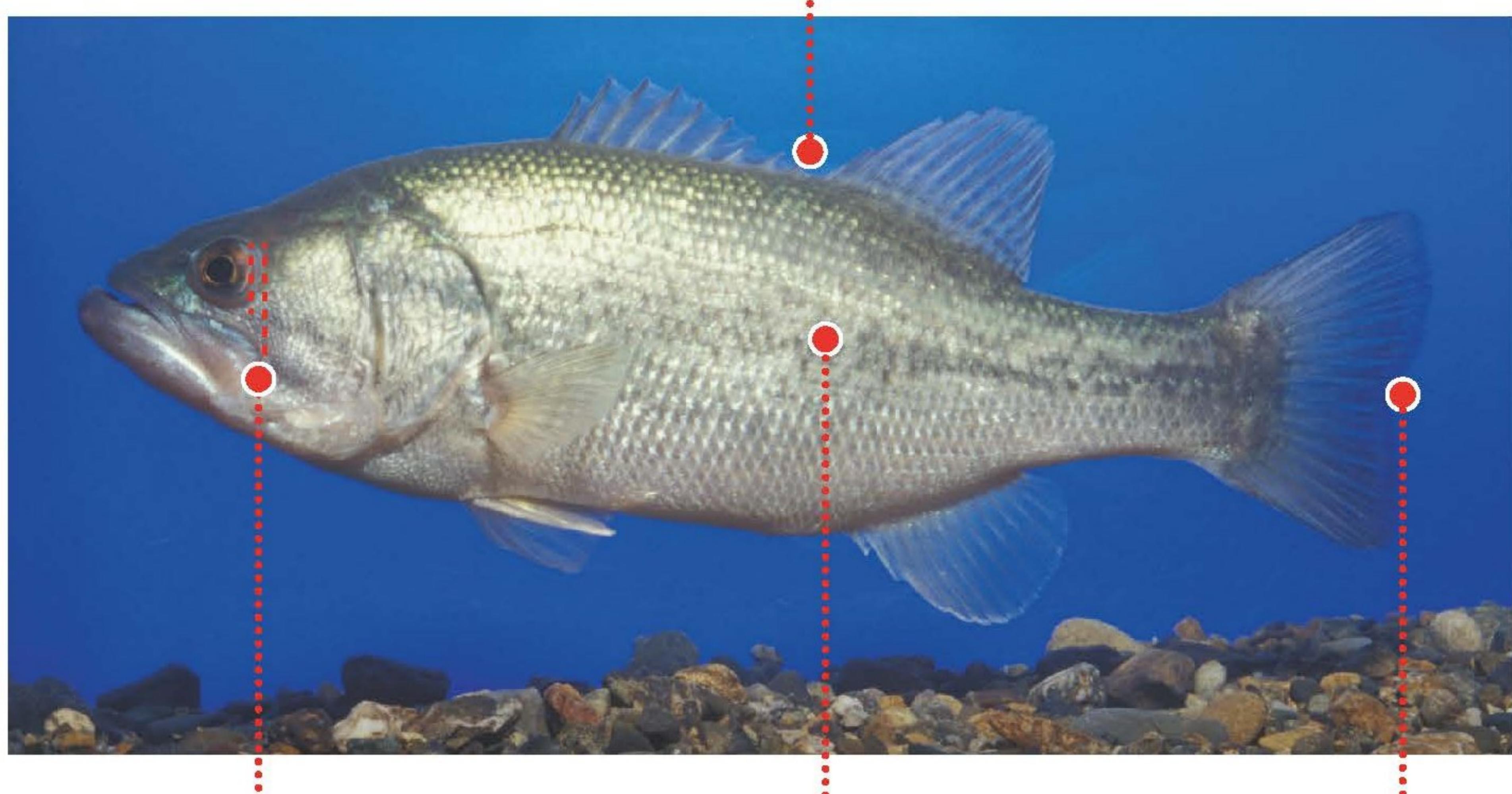
・捕食による有用魚介類の減少

生態系への被害

・在来種の捕食や餌資源を奪う

## 見た目の特徴

背びれの中央部が大きく凹み、前後2部に分かれて見える



アゴの後端は眼よりも後ろまで達する

体の側面に黒斑列がある  
(成魚では不明瞭なこともある)

尾びれの中央部がやや凹む

## 防除方法

繁殖力が非常に強いため、オオクチバスの防除には、成魚、稚魚、卵をあわせて除去し、数を減らす必要があります。

### ●成魚の防除

刺網、投網、定置網、電気ショッカー等の漁具・漁法を使って捕獲します。止水域では水を完全に抜いて駆除する方法が最も効果的です。

### ●稚魚の防除

浅場で群れを作って泳いでいるので、大きめのタモを使って、群れごと捕獲します。

### ●卵の防除

卵は成魚が浅場に作った産卵床に産みつけられています。卵を除去するには、産み付けられた石を取り除いたり、足で踏みつけて潰したり、上から砂をかけて埋めたりします。

# タイリクバラタナゴ

*Rhodeus ocellatus ocellatus*

重点対策



繁殖期のオスは鮮やかな婚姻色を示し、非常に美しくなります。

## 形態

全長7cmほど。体高が高く、腹びれの前縁は白く縁どられます。口ひげはありません。

## 原産地

アジア大陸東部に生息します。中国からソウギョやハクレンなどに混じって移入・放流されました。

## 生息環境

湖沼や池、水田、水路など流れのゆるやかな場所に生息しています。

## 防除方法

人為的な分布拡大を抑え、在来種が生息しやすい環境を保全することが重要です。そのほか、池干しをして在来種を移植し保護する方法があります。

### 被害状況チェックリスト

人体への被害

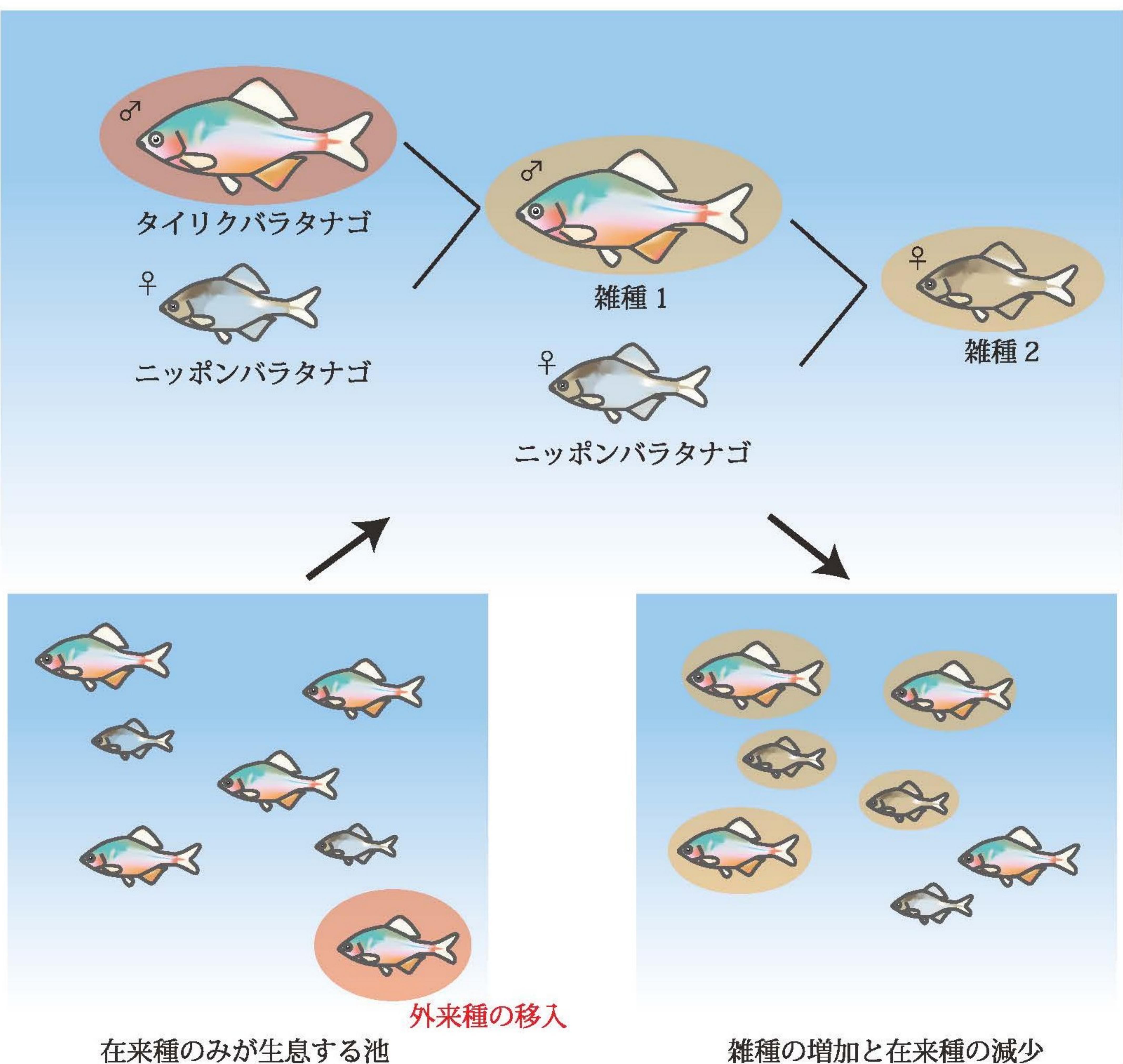
人の生活への被害

生態系への被害

・在来種のニッポンバラタナゴとの間に雑種をつくり、本来のニッポンバラタナゴを減少させる（遺伝子汚染）

タイリクバラタナゴは、在来種のニッポンバラタナゴとの間に簡単に雑種をつくります。産まれた雑種が成魚になると、再びニッポンバラタナゴとの間に雑種をつくるので、雑種がどんどん増えていきます。

たとえば、ニッポンバラタナゴのみが生息する池に、1匹でもタイリクバラタナゴが移入すれば、その池のニッポンバラタナゴの血筋を絶やしてしまう可能性があるのです。



在来種のみが生息する池

雑種の増加と在来種の減少



メス（上）の方がオス（下）よりも大きく、丸っこい形をしています。

## 形 態

全長はオスが3cm、メスが5cmほど。メダカに似た魚です。メダカに比べて、尾びれは丸く、臀びれは小さくなっています。

## 原 産 地

北アメリカ原産。「蚊絶やし」の和名が示すように、ボウフラ駆除の目的で導入されました。

## 生息環境

湖沼や池、水田、水路など流れのゆるやかな場所に生息しています。

## 防除方法

防除はとても難しいので、放流などで新たな場所に分布を拡げないことが大切です。

### 被害状況チェックリスト

人体への被害

人の生活への被害

生態系への被害

- ・メダカの生息場や餌資源を奪う
- ・メダカの稚魚を捕食する

# ジルティラピア

*Tilapia zillii*

その他  
総合対策



全長 30cm 以上になります。背びれに黒い斑点が 1 つあるのが特徴です。淡水から汽水域に生息しますが、海水中でも生息できます。アフリカ大陸北部から西アジアに分布し、エジプトのアレキサンドリア水族館から 1962 年に寄与され、日本に持ち込まれました。

## 被害状況チェックリスト

- 人体への被害
- 人の生活への被害
- 生態系への被害
  - ・不明

# ソウギョ

*Ctenopharyngodon idellus*

その他  
総合対策



## 被害状況チェックリスト

- 人体への被害
- 人の生活への被害
- 生態系への被害
  - ・水草を食べつくす

全長 1m 以上にもなる大型魚で、体は細く、コイに似ていますが口ひげはありません。中国に生息し、池の除草や食糧用として日本に持ち込まれました。河川や湖沼に生息します。水草を多量に食べるため、在来の水草の減少や、コイ・フナなど水草に産卵する魚類に影響する可能性があります。

# 九州北西部の ギギ

*Tachysurus nudiceps*

その他  
総合対策



全長 30cm ほど。体色は暗褐色で、4 対のヒゲがあり、胸びれと背びれがのこぎり状になっていて毒があります。近畿地方以西、四国の吉野川、仁淀川水系、遠賀川水系以東の福岡県・大分県に分布していましたが、秋田、新潟、福井、山梨、愛知、岐阜、三重、熊本の各県に移入しています。筑後川水系のものも国内移入になります。湖沼や河川中流域に分布しています。

## 琵琶湖・淀川以外の

# ハス

*Opsarichthys uncirostris uncirostris*

その他  
総合対策



全長 30cm ほど。体は細長く、口は下あごが上あごよりも前に突き出でていて、唇が「へ」の字に折れ曲がります。日本では、琵琶湖淀川水系、三方五湖に自然分布します。琵琶湖からの稚アユ放流に混入して各地に広まりました。

### 被害状況チェックリスト

- 人体への被害  
・胸びれと背びれに毒がある

- 人の生活への被害

- 生態系への被害  
・九州西部では、アリアケギバラチの生息地への影響が懸念

### 被害状況チェックリスト

- 人体への被害

- 人の生活への被害

- 生態系への被害  
・在来種の捕食や餌資源を奪う

# スクミリンゴガイ

*Pomacea canaliculata*

重点対策



卵塊

卵塊はピンク色で目立つので、すぐに発見できます。

## 形 態

殻高は最大で 8 cm になる大型の巻貝です。殻の色は茶褐色から緑褐色で、濃色の帯が渦巻き状に入ることが多いです。

## 原 産 地

南アメリカ原産。1980 年頃に食用のために持ち込まれました。養殖池から逃げ出したものが各地で繁殖しています。

## 生息環境

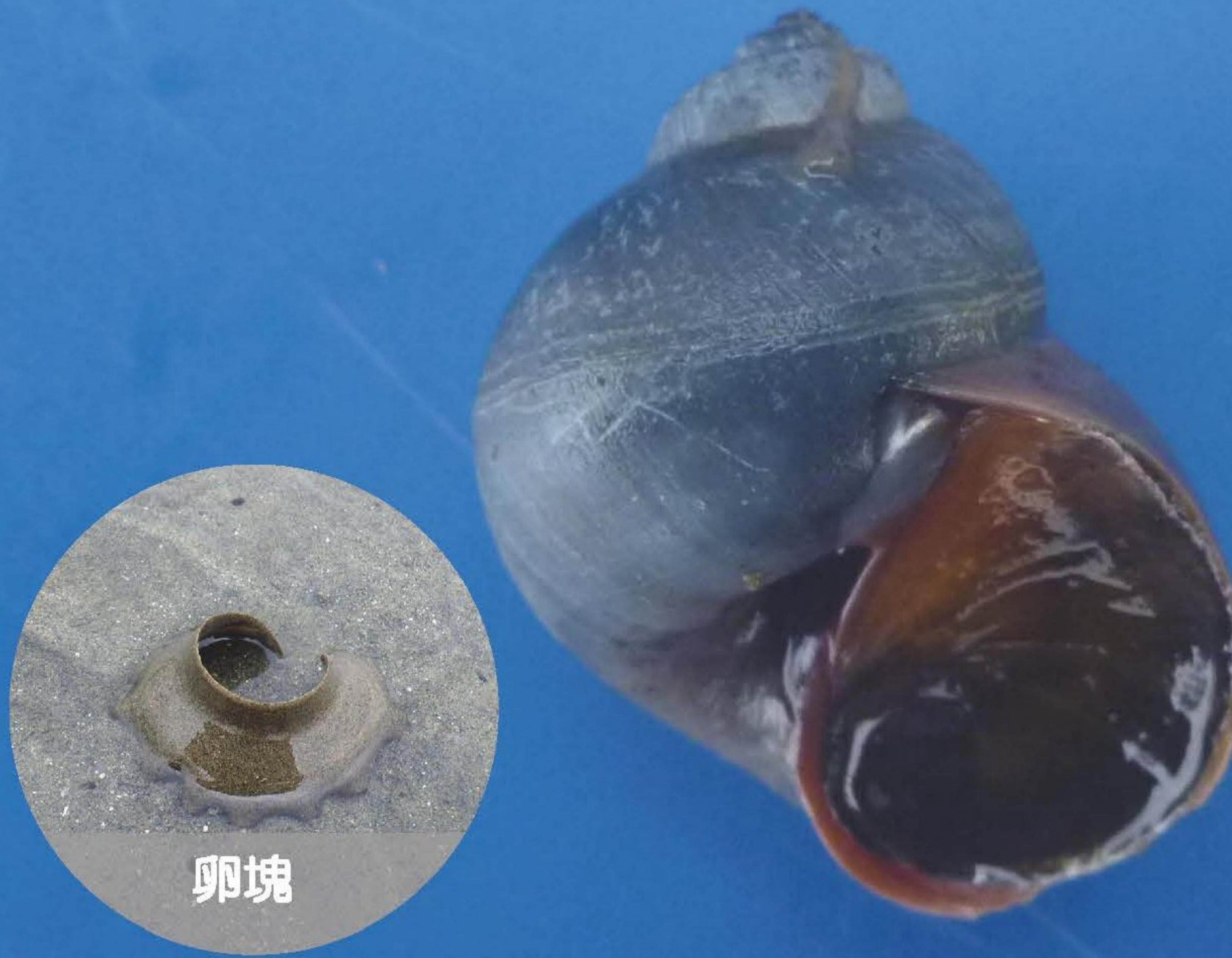
湖沼や池、河川の流れのゆるやかな水草のある場所に生息しています。水面より上の植物の茎や杭などに産卵します。

## 防除方法

駆除は難しく、未発生地域へ個体を導入しないようにする必要があります。

### 被害状況チェックリスト

- 人体への被害
- 人の生活への被害
  - ・レンコン、イネなどの食害
- 生態系への被害
  - ・在来種の餌資源を奪うおそれ



卵塊

国外由来のサキグロタマツメタは食欲旺盛で、干潟のブラックバスと呼ばれています。

## 形 態

殻高3~4cmほどの巻貝です。殻色は灰色で、名前にあるとおり殻の先が黒くなっています。

## 原 産 地

日本では、有明海や瀬戸内海に分布していました。中国大陸から輸入アサリに混ざって、日本各地に移入してきました。

## 生息環境

内湾の砂泥干潟に生息し、他の貝類を食べます。

## 防除方法

防除はとても難しいので、新たな場所に分布を拡げないことが大切です。

### 被害状況チェックリスト

- 人体への被害
- 人の生活への被害
  - ・アサリなどの水産生物の食害
- 生態系への被害
  - ・在来種の捕食や餌資源を奪う

# アメリカザリガニ

*Procambarus clarkii*

緊急  
対策



近づいて捕まえようすると、はさみを振り上げて威嚇します。

## 形態

体長 10cm ほど。体色は赤く鮮やかで、はさみは大きくトゲがあり、雄で特に発達します。

## 原産地

北アメリカに生息します。1927 年にウシガエルの餌として導入されました。

## 生息環境

湖沼、池、水田、河川、水路などの流れのゆるやかな場所に生息します。

## 防除方法

子どもの頃から教材やペットとして身近な存在となっており、防除はとても困難です。飼育放棄しないことと、野外から排除すべき種ということの認識を普及させることが大切です。

### 被害状況チェックリスト

人体への被害

人の生活への被害

・イネの苗を食害、切断する

生態系への被害

・魚、エビ・カニ、昆虫、植物など

いろいろな生物を食べつくす

# カラムシロ

*Nassarius sinarus*

その他  
総合対策



殻高 2cm ほどの小型の巻貝で、殻表面に縦すじがありますが、殻口の外側の縁（外唇）に向かって弱まります。腐肉食性で、砂泥質干潟に打ち上げられた生物の死骸を食べます。生活環境が似ているヒロオビヨフバイなどの在来種と競合する恐れがあります。

## 被害状況チェックリスト

- 人体への被害
- 人の生活への被害
- 生態系への被害
  - ・在来種の棲み処や餌資源を奪う

# タテジマフジツボ

*Amphibalanus amphitrite*

その他  
総合対策



## 被害状況チェックリスト

- 人体への被害
- 人の生活への被害
  - ・工場などの取水施設に付着して汚損被害を与える。
- 生態系への被害
  - ・在来種の棲み処を奪う

直径 1cm ほど。表面は平滑で白地に暗紫色の縦縞模様があります。全世界に広がっており、自然分布は不明ですが、バラスト水への混入や船体への付着により移入してきたと考えられます。

参考図書(より詳しい情報が必要な場合におすすめの図鑑)

『外来種ハンドブック』(地人書館)

『日本の外来生物 A Photographic Guide to the Invasive Alien Species in Japan』(平凡社)

『誰でもわかる外来種対策~河川を事例として~』(財団法人リバーフロント整備センター)

表紙写真・1段目:オオクチバス(ブラックバス)

2段目:アカミミガメ(ミドリガメ)

3段目左から:スクミリングガイの卵塊／アメリカザリガニ／カダヤシ

裏面写真・ジルティラピアの幼魚

## 九州でみられる 外来生物ガイドブック (水辺の動物編)

制作

平成29年11月 発行

一般財団法人 九州環境管理協会

著者

望月佑一 泉佑樹

〒813-0004 福岡県福岡市東区松香台1-10-1

電話:092-662-0447(直通) 092-662-0410(代表)

FAX:092-662-0411

※非売品

本書の内容を使用、引用する場合には著者あてに連絡いただき許諾を求めて下さい。



九州でみられる  
外来生物ガイドブック  
水辺の動物編

---

九環協ブックス  
003